

青森市社会教育委員委嘱状交付式・
令和7年度第1回青森市社会教育委員会議定例会議 会議概要

- 1 日時： 令和7年6月24日（火）15時30分～16時45分
- 2 会場： 青森市教育研修センター 5階 大研修室
- 3 出席者： 棟方 梢議長、泉 裕美子委員、伊藤 尚三委員、岩森 美代子委員、大鷹
依子委員、小笠原 秀樹委員、澤野 真希委員、長尾 信委員、三國 航委員
- 事務局： 教育長 : 工藤 裕司
教育部長 : 武井 秀雄
理事 : 泉 宏明
教育次長 : 角田 毅
文化学習活動推進課長 : 東條 英哲
中央市民センター主査 : 濱田 優美
浪岡教育課長 : 鈴木 謙一郎
指導課長 : 後藤 孝範
市民図書館長 : 土岐 志保
文化遺産課長 : 児玉 大成

4 次第

委嘱状交付式

定例会議

案件等

- (1) 令和7年度社会教育委員関係年間予定について
- (2) 令和7年度青森市社会教育関係事業実施予定スケジュールについて

その他

- (1) 令和7年度青森県社会教育研究大会について
- (2) 棟方志功没後50年記念展の開催について
- (3) 各委員からの社会教育に関する意見・要望等について

5 主な質疑応答、意見等

- 1 案件等 (2) 令和7年度青森市社会教育関係事業実施予定スケジュールについて

＜イングリッシュキャンプ開催事業・グローバル人材育成事業＞

(委員)

・事業内容が知りたい。また、希望したが定員により参加できないという子どもはいるのか。

(事務局)

- ・中学2、3年生を対象に、7月に夏のキャンプ、11月に秋のキャンプを予定している。秋のキャンプは昨年度も実施したが、中学3年生も参加できるよう、今年度は7月のキャンプを追加した。
- ・7月のキャンプはクルーズ船が来港する時期であり、英会話を学ぶ機会として、インバウンド客に対し英語で日本に来た理由等を質問し、その内容を発表し合うことを予定している。実施に際しては、ALTや英語教員等による指導を予定している。
- ・133名の応募があったが、中学2年生は秋のキャンプへ参加させる等の調整を行い、希望者が全員参加できるよう対応している。

(委員)

- ・6月～12月に月1回程度実施となっているグローバル人材育成事業との違いは何か。

(事務局)

- ・グローバル人材育成事業は、小学5、6年生を対象にグローバルな交流を体験してもらう事業であり、イングリッシュキャンプは中学生を対象としている。

<少年指導・育成事業>

(委員)

- ・月6～15回程度の街頭指導とあるが、実際にはどのように行っているのか。

(事務局)

- ・少年非行防止の観点から、ボランティア、小・中・高等学校の生徒指導担当等の教員、スーパー等の企業の方が、商店街や駅周辺等の巡回を行っている。

<友好交流推進事業>

(委員)

- ・文化が異なる者同士の交流は素晴らしいことだと思うが、どこを重点とするかにより事業の中身が変わってくるため、作品交流を実施している意図を聞きたい。

(事務局)

- ・作品交流を行っている2都市のうち、大連市とは、当初、小・中学生が互いの街を訪問し文化や街の良い点等を発表し合う人的交流も実施していたが、新型コロナウイルス感染症が主な原因で人的交流を休止した。その後、本市から再開の働きかけを行っているものの、現時点では作品交流のみとなっている。もう1都市のケチケメート市は、文化の一つとして版画に力を入れていることから、同様に作品交流を実施している。今後は、様々な地域との交流や、子どもたちが海外で夢を叶える契機となるようなことも視野に入れながら、より幅広く事業を考えていく必要があると考えている。

(委員)

- ・以前の会議で、海外のみに捉われず国内に目を向けることもよいのではという委員からの意見もあったため、現在の事業形態に捉われず、広く他にも目を向けていくことができればよいと期待している。

2 その他 (2) 棟方志功没後50年記念展の開催について

(委員)

- ・社会教育という観点からも、市民に作品と触れ合う機会を提供するため、観覧料無料の市民招待デーのようなものを設定できるとよいのではないかと考えている。

(事務局)

- ・本展示会は、青森県立美術館、一般財団法人棟方志功記念館及び青森市教委員会の3者による実行委員会が、常設展と連動した形で、青森県立美術館の管理・運営ルールの下で実施するため、無料デーの実施は困難であるものの、18歳以下及び高校生は無料としており、子どもたちが観覧しやすいのではないかと考えている。